
わくせい

神童サーガ

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

わくせい

【Nコード】

N3238F

【作者名】

神童サーガ

【あらすじ】

探偵と怪盗と女の子の三角関係で、女の子を救いつつ恋愛に持ち込めたらなと思います。女の子は無口です。

Chapter 1 アスの真実（前書き）

ちよつと・・・どころかシリアスでした。ギャグいれる暇さえありませんでした

Chapter 1 アスの真実

「・・・はあ」

「アス？」

「どーしたんだよ」

「・・・ううん」

急に溜め息を吐いてる女の子・・・地球のアスちゃん。
それを心配してる少年・・・太陽のタイヨウくん
もう一人の少年・・・月ユエくん

「・・・仕事は？太陽」

「ああ、今日予告状きたんだよ」

「懲りねーよな？サンも」

「さっさと捕まれば良いのにね」

「（ったくよー。捕まったらアスを守れねーじゃねーか）」

サンというのは世間を賑わしてる怪盗だ。

大胆不敵で、達成率100%

その正体は、ユエなのだ。

アスは、正体を知っている。

太陽は、探偵でサンを追ってるのだ。

三人は小さい頃からの幼馴染みなのだ。

小さい頃は、アスも明るい性格だったが、ある時に事件が起こり、

無表情の無口な女の子になってしまった。
太陽とユエは、そんなアスを助けるため、この仕事をしてる。皮肉にも敵同士ということになってしまったが。

「じゃあ行って来るね」

「・・・気をつけて」

「「ああ・・・」」

「ん？なんでユエ・・・」

「あ？・・・良いじゃねーか」

「・・・」

「お、怒るなよアス」

ケンカしだした二人に無言で睨んだ。
二人は笑いながら（引きつつて）謝った。
二人は、それぞれの場所に向かった。
アスは祈るしか出来ない。

「・・・ユエが捕まりませんように・・・太陽が怪我しませんように・・・」

と・・・

皮肉・・・

自己満足・・・

どちらも、応援は出来ない。

する資格が無いから。

愛を与えることも出来ない。

与える資格が無いから。

ただ、毎夜泣きながら祈るしか出来ない。

「私は・・・人形として・・・」

あやつり人形として生きるしか出来ない。

同じような日常を、同じように生きるしか出来ない。

「ごめんなさい・・・」

自分のせいで二人を傷付けてることは分かった。

正義と悪は裏表のコインのように近過ぎるのだ。

たった一人の女神を救うために、一人は悪に、もう一人は正義に。

「生きる意味・・・資格・・・あるの？・・・私がいなくなれば・・・」

二人の均衡が崩れてしまう。

三人は、ずっと一緒だった。

一人でも欠けたらダメなのだ。

「せめて・・・二人が無事に帰りますように・・・」

祈る資格だけは、下さい。

神様・・・

この世界に鎖を繋いでください。

「私と太陽とユエと・・・他はいらないから・・・」

必要としないから。

苦しみという毒杯を飲みますから。

だから、離さないで。

三人一緒に・・・

「・・・時間」

いつもと同じように、カラクリ人形は動く。

決して、道を外さない。

??月??日（火曜日）

20..55

見慣れた廃墟。

所々にクモの巣がかかっている。

カビ臭い。

ガラスは割れており、残ってはいない。

カッン、カッンと靴の音が響く。

印が付いてる位置で立ち止まった。

「来たか・・・」

いつもの声。

アスに喋る権利は無い。

だから、いつものように無言。

男は、一方的に話した。

前と同じセリフ。

一文一句間違いは無い。

機械的に話してる。

そして、話し終えた男はいなくなった。

煙りのように消えた。

それに驚くこともなく帰る。

悲観的・・・

傍観者・・・

何も変わらない。

「私は・・・二人を・・・どうするんだろう」

いつか、操られて二人を殺してしまうんじゃないかという恐怖が出てくる。

傷つけるだけでも嫌なのに・・・

歩く

歩く

歩く歩く歩く歩く歩く歩く歩く歩く・・・

「・・・どこへ？」

いつも通りなのに、いつもと違って冷たい。
ビリビリとする。

逃げたいと、何かから・・・

なんで・・・

こうなっただんだろう。

いつから・・・

壊れたんだろう。

愛したいはずなのに。

いつものように愛したいのに。

「会いたいのに・・・会いたい・・・会いたい、会いたい、会いたい逢いたい会いたい・・・」

人形に欲なんてないのに・・・
今の自分は・・・

「にんげん・・・？」

ポタポタ

頬が冷たい。
水？

涙？

「人形が泣くなんて・・・無い」

空を見ると暗くなっていた。
雲が晴れない。
ねずみ色。
誰の心？

「帰らないと・・・」

やはり機械的に帰るアス。

そして、さっきまで座ってた場所に座る。

冷たくなった。

どれ位の時間が経ってたのだろうか？

「ただいま!!」

「帰ったぞ!!」

「・・・おかえり」

いつものように、笑わずに言葉を紡ぐ。

それが、アスの日常だった。

「貴方達が・・・私を救うなら・・・私も・・・貴方達を・・・
救うの」

こんな救い方だけど・
・
・

Chapter 1 アスの真実（後書き）

なんか意味深〜！！守りたい！！（はい？）

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n3238f/>

わくせい

2011年1月28日05時40分発行